

田岡化学工業株式会社
2025年3月期第2四半期（中間期） 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2024年11月13日（水）14時～14時30分

当社説明者： 取締役社長 佐々木 康彰
取締役副社長 事業支援室長 岩崎 明

[説明内容]

11月13日に開示した全21ページのPDFに沿った説明。

https://www.taoka-chem.co.jp/ir/note/202503_2_briefing.pdf

[質疑応答内容]

<樹脂原料について>

質問1 来年度の業績回復は小幅な回復に留まるのか、それとも大幅な回復を期待できるのか。特に樹脂原料について教えてほしい。

回答 樹脂原料の一部グレードは既に在庫調整が完了しており、その他グレードについても順調に在庫の消化が進んでいると聞いている。そのため、当社としても回復することを期待している。

質問2 樹脂原料の在庫調整が終わり、本格的に業績が伸び始めるのはいつ頃か。

回答 顧客と協議中であるが、当社としては来年度中に相当量の生産体制を整えたいと考えている。

質問3 過去2、3年は在庫調整により業績が低迷していたが、来年4月頃からは本当に高い確度で顧客からの引き合いがあると考えてよいか。

回答 在庫量は当社・顧客共に順調に消化が進んでいると認識している。
当社プラントは多目的プラントを主体としており、樹脂原料についても多目的プラントで生産を行っていることから生産タイミングを検討する必要がある。顧客との間では樹脂原料の生産タイミングも含め、今後、相当量を供給していくことについて協議中である。

<稼働状況について>

質問4 上期の状況と下期の見通しを教えてほしい。

回答 今年の上期は多目的プラントを中心に稼働にまだ空きがあった。下期については新規受託製品等の工事の影響により全てが生産に寄与する訳では無いが、稼働率

は相当程度高まる見通し。

質問5 顧客新プラントの稼働状況と、播磨新工場の今後一年間の稼働について教えてほしい。

回答 顧客の新プラントでは現在試作を行っており、これから本格稼働に移行していくと思う。当社の播磨新工場は現在、農薬中間体と樹脂原料の試作を開始しており、来年度では稼働率を引き上げたいと考えている。

以上